

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅲ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
山田 英史										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るために人体の構造を理解を深めるために授業展開する。
 医療現場において各疾患の施術経験を有した教員が、解剖学の復習をして国家試験問題の解法を解説していく。

〔到達目標〕

1・2年で学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験問題を解くことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版) 国家試験問題集

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第1章 人体の構成	細胞、組織、体表構造を理解し国家試験の過去問が解ける。
2	第2章 循環器系①	血管系、心臓、動脈系を理解し国家試験の過去問が解ける。
3	第2章 循環器系②	静脈系、胎児循環、リンパ系を理解し国家試験の過去問が解ける。
4	第3章 呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、気管と気管支、肺を理解し国家試験の過去問が解ける。
5	第4章 消化器系①	口腔、咽頭、食道、胃を理解し国家試験の過去問が解ける。
6	第4章 消化器系②	小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜を理解し国家試験の過去問が解ける。
7	第5章 泌尿器系	腎臓、尿路を理解し国家試験の過去問が解ける。
8	中間テスト	1～7で習得した知識の再確認ができる。
9	第6章 生殖器系	男性生殖器、女性生殖器、受精と発生を理解し国家試験の過去問が解ける。
10	第7章 内分泌系①	下垂体、松果体、甲状腺を理解し国家試験の過去問が解ける。
11	第7章 内分泌系②	上皮小体、副腎、膵臓、性腺を理解し国家試験の過去問が解ける。
12	第8章 神経系①	神経系の構成、中枢神経系を理解し国家試験の過去問が解ける。
13	第8章 神経系②	伝導路、末梢神経系を理解し国家試験の過去問が解ける。
14	第9章 感覚器系	視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器を理解し国家試験の過去問が解ける。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

筆記試験にて評価を行う。評価は学則規定に準ずる。
 筆記試験は中間テスト(得点の45%)と期末テスト(得点の55%)の合計100点で評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

復習を行い知識定着に努めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	学年	3	必修・選択	必修	授業形態	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
					講義				

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学を各分野ごとに演習し、知識を深める授業を行う。

[到達目標]

医療系を志す者にとっての基礎となる科目であり、他の応用科目の礎となる内容であるため、しっかり理解を深める。

[使用教材、参考文献等]

生理学(医歯薬出版)、配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第1章(生理学の基礎)の演習	生理学の基礎の分野について理解を深める
2	第4章(消化と吸収)の演習	消化と吸収の分野について理解を深める
3	第5章(代謝)の演習	代謝の分野について理解を深める
4	第8章(内分泌)を演習	内分泌の分野について理解を深める
5	第9章(生殖・成長と老化)の演習	生殖・成長と老化の分野について理解を深める
6	第10章(神経一般)の演習	神経一般の分野について理解を深める
7	第10章(自律神経)の演習	自律神経の分野について理解を深める
8	第13章(感覚)の演習	感覚の分野について理解を深める
9	中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
10	テスト返却。第6章(体温)の演習	体温の分野について理解を深める
11	第2章前半[循環(血液)]の演習	循環(血液)の分野について理解を深める
12	第14章(生体防御機構)の演習 第15章(身体活動の協調)の演習	生体の防御機構の分野、身体活動の協調について理解を深める
13	第2章後半[循環(心臓)]の演習	循環(心臓)の分野について理解を深める
14	第3章(呼吸)の演習	呼吸の分野について理解を深める
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。中間テスト(35点)、期末テスト(50点)、小テスト(15点)の合計100点で評価する。期末テストは中間テストの範囲も含む。評価は学則規定に準ずる。
100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。再試験は15コマ分の全ての範囲で実施する。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

[特記事項・授業時間外における学習]

必要に応じ、プリントを配布する。
既に一度学習したことのある内容になるため、教科書はもちろん、これまでに学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 臨床医学各論Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇するであろう疾患について授業を展開する。社会の複雑化によって、鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法が多様化してきている。そのために国家試験問題を通して医療の基本を身に付け、応用力を養う。

[到達目標]

基本的な疾患ごとに基本的な病態生理を理解でき、主な症候を答えることができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学各論(医歯薬出版社:第2版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第11章 神経疾患	脳血管疾患、認知症を理解する。
2	第11章 神経疾患	運動ニューロン疾患を理解する。
3	第11章 神経疾患	筋疾患、基底核変性疾患を理解する。
4	第11章 神経疾患	末梢神経性疾患を理解する。
5	第11章 神経疾患	神経痛、機能的疾患を理解する。
6	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	第9章 循環器疾患	心臓疾患、冠動脈疾患を理解する。
8	第9章 循環器疾患	心臓疾患、冠動脈疾患を理解する。
9	第10章 血液・造血器疾患	赤血球・白血球疾患、出血性素因を理解する。
10	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病を理解する。
11	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病を理解する。
12	第13章 その他の疾患	精神科疾患・心療内科を理解する。
13	第13章 その他の疾患	婦人科疾患を理解する。
14	第13章 その他の疾患	期末試験の解答解説を行う。
15	期末テスト 解説	

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 臨床医学各論Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇するであろう疾患について授業を展開する。社会の複雑化によって、鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法が多様化してきている。そのために国家試験問題を通して医療の基本を身に付け、応用力を養う。

[到達目標]

基本的な疾患ごとに基本的な病態生理を理解でき、主な症候を答えることができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学各論(医歯薬出版社:第2版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第13章 その他の疾患	一般外科(損傷概論、ショック)を理解する。
2	第13章 その他の疾患	一般外科(外科的感染症、救急処置、心肺蘇生術)を理解する。
3	第13章 その他の疾患	小児科疾患を理解する。
4	第13章 その他の疾患	麻酔科を理解する。
5	第13章 その他の疾患	皮膚科疾患を理解する。
6	第13章 その他の疾患	加齢に伴う病態を理解する。
7	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
8	第2章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患、腸疾患を理解する。
9	第3章 肝・胆・膵疾患	肝臓疾患、胆道疾患、膵臓疾患を理解する。
10	第5章 腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器疾患を理解する。
11	第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患を理解する。
12	第4章 呼吸器疾患	アレルギー性疾患、拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患を理解する。
13	第6章 整形外科疾患	総論、関節疾患、骨代謝疾患、骨腫瘍、筋腱疾患、形態異常を理解する。
14	第6章 整形外科疾患	脊椎疾患、脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患を理解する。
15	期末試験	期末試験の解答解説を行う。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	30(1)	授業回数	15
東野 友寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

治療院勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、リハビリテーションの捉え方や評価方法を理解し国家試験・臨床に活かしていくための授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

リハビリテーション医学Ⅰで学んだことが実際の疾患になるとどのように活かされるかを理解する。これによってリハビリテーション医学を試験で解く際や臨床で活かせるようにすること。

〔使用教材、参考文献等〕

新版リハビリテーション医学(文光堂)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	脳血管障害	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
2	脳血管障害、パーキンソン病	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
3	その他神経疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
4	小テスト	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
5	脊髄損傷	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
6	脊髄損傷、切断	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
7	関節リウマチ、スポーツ外傷	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
8	確認テスト	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。
9	内部障害(虚血性心疾患、呼吸器疾患)	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
10	内部障害(糖尿病、腎・尿路疾患)	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
11	高齢者に多くみられる疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
12	小児疾患(脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎)	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
13	がん、整形外科疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
14	整形外科疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
15	期末テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。

〔成績評価について〕

評価は小テスト、確認テスト、小テストで行う。小テスト(10点×2回)＋確認テスト(30点)＋期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。例年小テスト確認テストで数点ずつ取っていただければ合格のものが多いので気を抜かずに望んでいただきたい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	学年	3	必修・選択	必修	授業形態	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
					講義				
関係法規									

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師として業を行うために必要な法的要件を講義形式で行う。

〔到達目標〕

あはき業に従事する上で理解しておくべき法令を学び、医療従事者としての知識を深めることを目的とする。

〔使用教材、参考文献等〕

関係法規(医歯薬出版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 「法とは何か」「あはき法の法制定の目的」	医療関係の法の目的について理解できる。
2	あはき法 免許と試験	免許の要件や試験について理解できる。
3	あはき法 業務①	業務の範囲や施術所の要件を理解できる。
4	あはき法 業務②	広告の制限や医療行為について理解できる。
5	あはき法 学校・養成施設、罰則について	学校の教育内容、施設などについて理解し罰則について理解できる。
6	関係法規 医療法	医療法規の大要を把握することができる。
7	医師法 その他の医療従事者に関する法律	医師法について理解し、医療従事者の資格法の差異を理解することができる。
8	薬事法規 保健一般に関する法律 確認テスト	医薬品、医療機器等の有効性及び安全性確保に関する法律を理解することができる。
9	衛生に関する法律	母体保護法や精神障害者福祉に関する法律を理解することができる。
10	社会福祉関係法規	社会福祉法の概要を把握することができる。
11	健康保険法、国民健康保険法	健康保険法と国民健康保険法の差異を理解することができる。
12	高齢者の医療 介護保険法	高齢者の医療に関する法律と介護保険法の概要を理解することができる。
13	生活保護法 医療保険制度	わが国の医療保険制度を理解する。
14	要点整理 総復習	関係法規全般を復習し、習熟度を高めることができる。
15	期末テスト 復習	テストにより効果測定を行い、解説によって理解を深めることができる。

〔成績評価について〕

筆記試験にて評価をおこなう。
評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	東洋医学特論			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
[授業の学習内容と心構え]											

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、東洋医学的な病態生理に関して問題演習を通じて理解を深めるための授業を展開する。

[到達目標]

今まで学習した東洋医学の知識を統合させ、国家試験や鍼灸治療に役立てられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

新版東洋医学概論(医道の日本社)、新版経絡経穴概論(医道の日本社)、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	経絡経穴概論、東洋医学概論	概論、流注、奇経、気・血・津液、三因極を理解する。
2	経絡経穴概論、東洋医学概論	骨度法、要穴、八綱病証、脈を理解する。
3	経絡経穴概論、東洋医学概論	手、足の取穴 経絡病証、六経弁証を理解する。
4	経絡経穴概論、東洋医学概論	背部、胸部、腹部の取穴を理解する。 四診、治療方針を理解する。
5	経絡経穴概論、東洋医学概論	奇穴、組合せ穴、経絡現象 治療原則を理解する。
6	中間試験	1～5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	東洋医学臨床論 第2章 各論 第1節	頭痛、顔面痛、胸痛、腹痛を理解する。
8	東洋医学臨床論 第2章 各論 第1節	関節痛、頸肩腕痛、上肢痛、肩関節痛腰下肢痛、下肢痛、膝痛を理解する。
9	東洋医学臨床論 第2章 各論 第2節	肝系統を理解する。
10	東洋医学臨床論 第2章 各論 第2節	心系統、脾系統、肺系統を理解する。
11	東洋医学臨床論 第2章 各論 第2節、第3節	腎系統、浮腫を理解する。
12	東洋医学臨床論 第2章 各論 第4節、第5節	顔面麻痺、歩行異常、出血傾向、月経異常を理解する。
13	東洋医学臨床論 第2章 各論 第6節、第7節	小児特有の症候と老年特有の症候を理解する。
14	期末試験	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解答解説	期末試験の解答解説を行う。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 藤井 優子			
授業科目名 東洋医学臨床論Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、過去学習してきた臨床医学各論・東洋医学概論・経絡経穴概論の知識を深め西洋医学的・東洋医学的見知から疾患への理解向上を図る授業を展開する。鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズム、治療法を理解する。□

〔到達目標〕

鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズムから治療法に対する理解を深め、国家試験を通過できるだけの知識を有する。□

〔使用教材、参考文献等〕

新版東洋医学概論・新版経絡経穴概論・新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	【復習①】気・血・津液弁証	気・血・津液の生理と病態を理解し所見から弁証することが出来る。
2	【復習②】臓腑弁証(肝・心・脾)	臓腑の生理と病態を理解し所見から弁証することができる。
3	【復習③】臓腑弁証(肺・腎)	臓腑の生理と病態を理解し所見から弁証することができる。
4	2-3. V. 便秘 便秘を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する 小テスト①10点	便秘を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
5	2-3. VI. 下痢 下痢を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する	下痢を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
6	3- I. 疲労と倦怠 疲労を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する 小テスト②5点	疲労と倦怠を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
7	II. 発熱 発熱を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト①	発熱を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
8	中間テスト 30点	気血津液弁証・臓腑弁証・便秘・下痢・疲労と倦怠・発熱について学習した内容を確認する。
9	III. 冷え 冷えを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	冷えを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
10	IV. のぼせ のぼせを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	のぼせを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
11	V. 浮腫 浮腫を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト③5点	浮腫を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
12	VI. 搔痒感(かゆみ)を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	搔痒感を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
13	4- I. 顔面麻痺を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト④5点	顔面神経麻痺を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
14	II. 歩行異常 歩行異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト⑤5点	歩行異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的な所見を理解し治療法を考えることが出来る。
15	期末テスト 40点	疲労と倦怠、発熱、冷えのぼせ、浮腫、搔痒感・顔面麻痺・歩行異常について学習した内容を確認する。

〔成績評価について〕

中間テスト 30点
 期末テスト 40点
 小テスト30点
 筆記試験及びフォームスで実施し合計100点として科目の評価とする。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

予習課題を実施。内容は事前にteamsにより告知。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	後期	担当教員 藤井 優子			
授業科目名 東洋医学臨床論Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、過去学習してきた臨床医学各論・東洋医学概論・経絡経穴概論の知識を深め西洋医学的・東洋医学的見知から疾患への理解向上を図る授業を展開する。鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズム、治療法を理解する。□

〔到達目標〕

鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズムから治療法に対する理解を深め、国家試験を通過できるだけの知識を有する。□

〔使用教材、参考文献等〕

新版東洋医学概論・新版経絡経穴概論・新版東洋医学臨床論(はりきゅう編) □

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	Ⅲ. 口渇を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	口渇を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
2	Ⅳ. 出血傾向を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト①	出血傾向を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
3	5-Ⅰ. 月経異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト②	月経異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
4	Ⅱ. 月経異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	月経異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
5	Ⅲ. 性器出血を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト③	性器出血を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。
6	Ⅳ. 帯下を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	帯下を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
7	Ⅴ. 不妊症を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト④	不妊症を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
8	中間テスト①	口渇・出血傾向・月経異常・性器出血・帯下・不妊症について理解し問題を解くことが出来る。
9	Ⅵ. 悪阻・Ⅶ. 逆子の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	悪阻・逆子の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
10	Ⅷ. 乳汁分泌不全の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	乳汁分泌不全の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
11	6-Ⅰ. 小児疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト⑤	小児の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
12	Ⅱ. 小児疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	小児の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
13	7-Ⅰ. 老年特有の疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト⑥	老年特有の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
14	Ⅱ. 老年特有の疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	老年特有の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することが出来る。
15	期末テスト	悪阻・逆子・乳汁分泌不全・小児疾患・老年の症候について理解し問題を解くことが出来る。

〔成績評価について〕

中間テスト 30点
 期末テスト 40点
 小テスト30点
 筆記試験及びフォームスで実施し合計100点として科目の評価とする。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

予習課題を実施。内容は事前にteamsにより告知。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員		大石 知絵子	
授業科目名	東洋医学臨床実践		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、四診の基本となる舌診と脈診を解説し、気血津液弁証・臟腑弁証の基本的な処方を講義する。自分が臨床現場に出てから、どのように鍼灸を用いるのかを考えながら受講してほしい。□

〔到達目標〕

東洋医学の考え方による治療の基礎となる舌診、脈診を実践する。臨床で多く使用される気血津液弁証と臟腑弁証を理解し、各弁証取穴を知る。要穴(五行穴・五要穴)の取穴部位を覚え、迷いなく刺鍼できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸BOOK、中医臨床のための舌診と脈診□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	導入・舌診と脈診	中医学の概要と舌診・脈診について理解できる
2	舌診と脈診	舌診と脈診の臨床応用を理解できる
3	気虚証の治療	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
4	気滞証の治療 (小)	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
5	血虚証の治療	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
6	血瘀証の治療 (小)	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
7	陰虚証の治療	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
8	痰湿証の治療 (小)	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
9	テスト1	気血津液弁証の理解度を確認する
10	臟腑弁証の処方1	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
11	臟腑弁証の処方2	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
12	臟腑弁証の処方3 (小)	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
13	臟腑弁証の処方4	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
14	臟腑弁証の処方5 (小)	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
15	テスト2	臟腑弁証の理解度を確認する

〔成績評価について〕

評価基準は学則に則り行う。
 テスト1: 気血津液弁証に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 テスト2: 臟腑弁証に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 テスト3: 中国鍼の刺鍼実技(30点、実技)
 テスト4: 経筋に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 小テスト: 要穴(五行穴、五要穴)の取穴部位(筆記)□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

- ・白衣着用、サンダル着用、手の爪は短く切り清潔に保つこと
- ・講義中の飲食は原則禁止(缶の持ち込み不可)
- ・講義の録画・録音・撮影は禁止
- ・資料等の共有、外部への持ち出し、公開は禁止
- ・小テストは筆記用具持参(忘れた場合は0点)
- ・フォームス形式での試験は、PC・タブレットのみ可

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	東洋医学臨床実践		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
大石 知絵子										

〔授業の学習内容と心構え〕

中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、四診の基本となる舌診と脈診を解説し、気血津液弁証・臟腑弁証の基本的な処方を講義する。自分が臨床現場に出てから、どのように鍼灸を用いるのかを考えながら受講してほしい。□

〔到達目標〕

東洋医学の考え方による治療の基礎となる舌診、脈診を実践する。臨床で多く使用される気血津液弁証と臟腑弁証を理解し、各弁証取穴を知る。
要穴(五行穴・五要穴)の取穴部位を覚え、迷いなく刺鍼できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸BOOK、中医臨床のための舌診と脈診□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	督脈通陽法 (小)	督脈に灸頭鍼を施す
2	皮内鍼	皮内鍼の基本操作を実践する
3	中国鍼 (小)	中国鍼の刺鍼操作を実践する
4	中国鍼	催気法と動的補瀉法を学ぶ
5	中国鍼 (小)	中国鍼の刺鍼と動的補瀉法の復習
6	テスト3	中国鍼の刺鍼と動的補瀉法
7	頭皮針 (小)	朱氏頭皮針を実践する
8	頭皮針	朱氏頭皮針を実践する
9	頭皮針 (小)	朱氏頭皮針を実践する
10	経筋学	経筋学を学ぶ
11	経筋学 手三陰経筋 肩関節	経筋を用いた治療法を実践する
12	経筋学 手三陰経筋 頸部	経筋を用いた治療法を実践する
13	経筋学 手三陰経筋 股関節	経筋を用いた治療法を実践する
14	経筋学 手三陰経筋 腰部	経筋を用いた治療法を実践する
15	テスト4	経筋学

〔成績評価について〕

評価基準は学則に則り行う。
 テスト1: 気血津液弁証に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 テスト2: 臟腑弁証に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 テスト3: 中国鍼の刺鍼実技(30点、実技)
 テスト4: 経筋に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 小テスト: 要穴(五行穴、五要穴)の取穴部位(筆記)□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

- ・白衣着用、サンダル着用、手の爪は短く切り清潔に保つこと
- ・講義中の飲食は原則禁止(缶の持ち込み不可)
- ・講義の録画・録音・撮影は禁止
- ・資料等の共有、外部への持ち出し、公開は禁止
- ・小テストは筆記用具持参(忘れた場合は0点)
- ・フォームス形式での試験は、PC・タブレットのみ可

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年 3	開講区分 後期	担当教員 小池 俊治		
授業科目名 特殊鍼灸療法学	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

古代九鍼の継承と実践を行う団体に所属する鍼灸師が、毫鍼だけでなく刺絡鍼法・火鍼などの特殊鍼法を実技で実践する授業を行なう。実技と合わせて、中医弁証の実際についても講義を行い、証を立てて治療方針が立てられるようにする。

〔到達目標〕

九鍼の考え方、実際の使用方法に至るまでを学習、実践できるようになる。また、渡洋医学概論・臨床論の復習を行い、自分の力で症例を解いて、治療方針を立てられるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版東洋医学概論(医歯薬出版)ビジュアルでわかる九鍼実技解説

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス 中医基礎理論の全体構造 毫鍼実技	中医基礎理論の全体像が理解できる。
2	症例トレーニング① 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
3	症例トレーニング② 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
4	症例トレーニング③ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
5	症例トレーニング④ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
6	症例トレーニング⑤ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
7	確認テスト	筆記試験で効果測定を行なう。
8	刺絡についての講義と実技①	刺絡についての理解を深めることができる。
9	刺絡の実技②	刺絡についての理解を深めることができる。
10	刺絡の実技③	刺絡の実技が出来るようになる。
11	刺絡の実技④	刺絡の実技が出来るようになる。
12	火鍼についての講義と実技①	火鍼についての理解を深めることができる。
13	火鍼の実技②	火鍼の実技が出来るようになる。
14	総合実技	これまで学んだ実技を組み合わせて治療できる。
15	期末テスト	筆記試験で効果測定を行なう。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必要に応じプリントが配布される。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	古典・経絡治療学		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
藤井 優子										

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、筋・骨などの局所治療の知識だけでなく、鍼灸治療の根幹をなす「経絡」の変動から患者の不調を見極める鍼灸師となるための授業を展開する。主に経絡治療の基礎である陰陽の概念の習得や脈診・腹診・切経を用いた診断技術の向上を目指す。

〔到達目標〕

四診を用いて患者の診察・診断を行い1人で治療方針を組み立てる事が出来る。□

〔使用教材、参考文献等〕

経絡治療のすすめ(首藤傳明)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡治療の基本的な考え方。本治法、標治法について。脈診を行う姿勢を学び実践する。	本治法・標治法の違いを理解する。正しい姿勢で脈を取ることが出来る。
2	六部定位脈診を行う。脈診部での臓腑配当を理解し目的の深さ・位置で脈の状態を把握する。	臓腑配当を理解する。自分がどの深さで何を診るのかを明確にし最も弱い部位を探し出す事が出来る。
3	六十九難による配穴法。六部定位脈診によって得られた情報から経穴を選び、刺鍼によって脈に変化が出るかを検証する。	六十九難の配穴法を理解し、経穴を正しく選ぶことが出来る。刺鍼による脈の変化を感じることが出来る。
4	祖脈診を行う。浮・沈・遲・数・虚・実を見極め、患者の	祖脈の意味、どの深さで何を診るのかを理解し全身状態を把握することが出来る。
5	愈刺鍼を行う。背部愈穴を用い患者の全身治療を行う。愈刺による脈状の変化をみる。	背部愈穴を用いる意義を理解する。鍼による全身への効果を脈の変化から感じられる。
6	中間テスト。脈診の基礎である六部定位脈診・祖脈診と難経六十九難の配穴の確認を行う。	六部定位脈診・祖脈診の意義を理解し、六十九難の配穴法を用いて経穴を選択することが出来る。
7	腹診を行う。腹診の意義、腹部の触診の仕方を学び実践する。	腹診を行う意義を理解し、患者に不快感を与えることなく触診できる技術を身につける。
8	腹診を行う。腹診から得られた情報と脈診を照らし合わせ全身状態を把握し治療方針を検討する。	腹診と脈診の情報から全身状態を把握することができる。
9	経筋病(上肢): 経筋とは何か理解し上肢の病に対して障害経筋を選び刺鍼による変化をみる。	上肢の運動に関係する経筋を理解し、障害経筋を適切に見つけることができる。
10	経筋病(下肢): 経筋とは何か理解し下肢の病に対して障害経筋を選び刺鍼による変化をみる。	下肢の運動に関係する経筋を理解し、障害経筋を適切に見つけることができる。
11	体質と病証の関係を理解する。脈診、腹診などの症状と体質の関係を理解し治療方針を立てる。	体質と病証の関係を理解し、治療方針を立てることができる。
12	問診練習: 必要な患者情報を引き出す。	治療方針を検討するために必要な患者情報を適切に引き出すことができる。
13	グループワーク: 5人1組で問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	患者情報から治療方針を組み立て実践することができる。
14	期末テスト: 問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	自ら考え最後まで治療の流れを組み立てることができる。
15	期末テスト: 問診、触診などの情報から治療方針を組み	自ら考え最後まで治療の流れを組み立てることができる。

〔成績評価について〕

中間テスト 筆記(50点)
期末テスト レポート課題(50点)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

日々、家族やクラスメイト、自身の脈診を行い体調による変化を観察する。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	はきの適応判断学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
山田英史先生										

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、病態生理学、臨床医学総論、臨床医学各論で得た知識を基に、患者の症状から病態を把握し、鍼灸治療の適応の可もしくは否かを的確に判断することで実際の臨床に役立つ知識を習得するための授業を展開する。

〔到達目標〕

西洋医学的な診断方法と東洋医学的な診断方法を習得し、その診断から治療方針などをたてて実際に治療できるようになる。病態生理や症状より鍼灸治療の適応の可か否かを判断できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

配布資料 はりきゅう実技基礎編(医道の日本)、病態生理、臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学臨床論

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	頭痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
2	顔面痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
3	顔面麻痺 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
4	胸痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
5	腹痛 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
6	腰下肢痛①	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
7	腰下肢痛②	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
8	中間テスト解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	頸肩腕痛①	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
10	頸肩腕痛②	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
11	肩関節痛 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
12	上肢痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
13	膝関節痛 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
14	下肢痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
15	期末テスト解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

筆記試験にて評価を行う。評価は学則規定に準ずる。
筆記試験は中間テスト(得点の45%)と期末テスト(得点の55%)の合計100点で評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

臨床医学各論や臨床医学総論、病理学などを復習する。復習することで臨床に向けての心構えを養う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	柏崎 雅大 / 酒井 大輝			
授業科目名	学年	3	開講区分	前期				
認定実技 (OSCE) II	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸臨床に必要な基本的臨床技能を身につけるための講義を行う。
 模擬患者を用いた実践演習を通して、医療面接、評価、施術、説明、安全管理までの一連のプロセスを統合的に実践する。

[到達目標]

- ・鍼灸臨床における一連の診療プロセスを、安全かつ適切に実践できる。
- ・客観的評価基準に基づき、基本的臨床技能を再現性高く遂行できる。

[使用教材、参考文献等]

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	はりきゅう実技訓練(刺鍼技術①)	直刺、斜刺、横刺の基礎実技を確認し、深度・角度を調整して刺鍼ができる。
2	はりきゅう実技訓練(施灸技術①)	透熱灸の基礎実技を確認し、精度の高い施灸技術を再現できる。
3	はりきゅう実技訓練(刺鍼技術②)	直刺、斜刺、横刺の基礎実技を確認し、精度の高い刺鍼技術を再現できる。
4	はりきゅう実技訓練(施灸技術②)	八分灸の基礎実技を確認し、精度の高い施灸技術を再現できる。
5	検査法の実技訓練	臨床評価試験において求められる各種徒手検査法を復習し、未修得技術を確認・把握ができる。
6	検査法の実技訓練	臨床評価試験において求められる各種徒手検査法を正確に実施できる。
7	検査法の実技訓練	臨床評価試験において求められる関節可動域検査、反射検査法を正確に実施できる。
8	徒手検査法の確認試験	試験により徒手検査法の修練度と課題を客観的に把握できる。
9	模擬問題による医療面接・検査の演習	模擬症例に対し、問診情報を下に適切な検査を選択・実施し、所見を統合して臨床判断に結びつけることができる。
10	客観的臨床能力試験のプレ試験	OSCE形式のプレ試験を通じて、自身の臨床技能の到達度と課題を客観的に把握できる。
11	客観的臨床能力試験のプレ試験	OSCE形式のプレ試験を通じて、自身の臨床技能の到達度と課題を客観的に把握できる。
12	客観的臨床能力試験(医療面接)	OSCE形式の試験において、適切なコミュニケーションにより必要な情報を系統的に収集できる。
13	客観的臨床能力試験(各種検査法)	OSCE形式の試験において、聴取した情報を基に適切な検査を選択し、正確に実施・解釈できる。
14	客観的臨床能力試験(はり実技)	OSCE形式の試験において、適切な部位に安全かつ正確に鍼施術を実施できる。
15	客観的臨床能力試験(きゅう実技)	OSCE形式の試験において、適切な部位に安全かつ正確に灸施術を実施できる。

[成績評価について]

評価は医療面接、検査法、はり実技、きゅう実技による評価の合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

模擬症例であっても実際の患者を想定し、臨床と同等の意識で学習に望むこと。授業外では復習と反復練習を行い、技能・判断力・安全意識の向上に努めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			開講区分	前期	担当教員				
授業科目名	学年	3	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
	臨床はりきゅう実技									

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。主に美容鍼灸を中心とし、各領域の機能およびメカニズムを理解し実践する。様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

様々な疾患に対して、その領域における構造およびメカニズムを理解し施術を実践できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える鍼灸BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 美容鍼灸ガイダンス	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
2	美容鍼①(鍼の効果と鍼理論)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
3	美容鍼②(顔面解剖、表情筋。人の印象は3秒で決まる)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
4	美容鍼③(美人・イケメンの定義とは？解剖学から考える)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
5	美容鍼④(咀嚼筋と身体つながり)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
6	美容鍼灸実践①	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。
7	美容鍼灸実践②	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。
8	美容鍼⑤(頭と顔のつながり。自律神経が与える影響)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
9	美容鍼⑥(いわゆる美肌とは？皮膚代謝のメカニズム)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
10	美容鍼⑦(美容鍼灸の可能性。美容医療との違い。)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
11	胸椎を中心とした全身調整法と美容鍼灸	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
12	胸椎を中心とした全身調整法と美容鍼灸	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
13	胸椎を中心とした全身調整法と美容鍼灸	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
14	美容鍼灸実践③	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。
15	美容鍼灸実践④	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。

〔成績評価について〕

レポート課題 5回×20点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎回、タブレット等のデバイスを用いて施術前後の写真撮影を行い、評価を行ったポイントなどを記載して、レポート課題の作成に取り組むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	3	開講区分	後期	担当教員	進藤 千聖		
授業科目名	臨床はりきゅう実技			必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。主に美容鍼灸を中心とし、各領域の機能およびメカニズムを理解し実践する。様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

様々な疾患に対して、その領域における構造およびメカニズムを理解し施術を実践できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える鍼灸BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	トリガーポイント治療	トリガーポイントの理解を深め、主要な筋肉のトリガーポイントへの刺鍼を行うことができる。
2	トリガーポイント治療	トリガーポイントの理解を深め、主要な筋肉のトリガーポイントへの刺鍼を行うことができる。
3	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
4	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
5	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
6	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
7	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
8	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
9	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
10	評価試験①	はり・きゅうに関する基本実技評価を行い、個々の課題を見つけることができる。
11	評価試験②	はり・きゅうに関する基本実技評価を行い、個々の課題を見つけることができる。
12	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
13	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
14	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
15	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。

〔成績評価について〕

レポート課題 5回×20点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎回、タブレット等のデバイスを用いて施術前後の写真撮影を行い、評価を行ったポイントなどを記載して、レポート課題の作成に取り組むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	スポーツ鍼灸		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
							鳥海 崇			

〔授業の学習内容と心構え〕

スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。評価の流れを考え、模倣できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	臨床実習	臨床実習について理解できる。
2	運動鍼の方法と実践①	いくつかの運動鍼の方法を理解できる。自動運動による運動鍼を実践できる。
3	運動鍼の方法と実践②	他動運動による運動鍼を実践できる。
4	M-testについての考え方と実践①	M-testの考え方を理解できる。
5	M-testについての考え方と実践②	M-testの考え方を理解し実践できる。
6	頭板状筋・頸板状筋・肩甲挙筋の低周波鍼通電	板状筋・肩甲挙筋の走行を理解し刺鍼できる。
7	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	頸部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
8	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)顔面神経・斜角筋群の低周波鍼通電	頸部の評価を実践し、関節への治療を模倣できる。顔面Nの走行・斜角筋の位置を理解し刺鍼できる。
9	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
10	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)肩甲帯筋の低周波鍼通電	肩部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
11	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)三角筋・大菱形筋・小菱形筋の低周波鍼通電	三角筋の走行を理解し刺鍼できる。菱形筋の位置を理解し安全に刺鍼できる。
12	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	肩部の評価方法を実践し、筋または関節への治療を模倣できる。
13	スポーツ東洋療法 女性とスポーツについて	女性とスポーツの関係について知る。
14	肩部・上肢スポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)評価をふまえた局所治療)胸郭出口症候群(TOS)の考え方 評価と治療	肩部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
15	上肢の低周波鍼通電	上腕二頭筋・上腕三頭筋と前腕筋群の走行を理解し刺鍼できる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。
* 上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	後期	担当教員 鳥海 崇			
授業科目名 スポーツ鍼灸	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

[到達目標]

スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。評価の流れを考え、模倣できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)梨状筋・坐骨神経の低周波鍼通電	股関節の評価方法を実践でき、梨状筋の走行・深さを理解し刺鍼できる。坐骨神経の刺鍼部位を理解し刺鍼できる。
2	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	股関節の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
3	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療と遠隔治療)	股関節の評価方法を実践し、局所・遠隔治療を模倣できる。
4	腰背部のスポーツ疾患(筋への局所治療)	腰背部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
5	腰背部のスポーツ疾患(関節への局所治療)	腰背部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。椎間・仙腸関節の理解し刺鍼できる。
6	腰背部のスポーツ疾患	股関節の動作改善を合わせた腰背部の治療を模倣できる。
7	膝関節のスポーツ障害(腸脛靭帯炎・鷲足炎)	膝関節の慢性障害を理解し、対応する筋に治療を模倣できる。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
9	膝関節のスポーツ疾患(筋への局所治療)	膝関節の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
10	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)	膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
11	膝の慢性疾患における鍼灸治療と考え方	膝OAに関する考え方を理解し、治療法とセルフエクササイズの指示を模倣できる。
12	足関節・下肢のスポーツ疾患長腓骨筋・短腓骨筋の低周波鍼通電	足関節・下肢の評価方法を実践し、局所治療を模倣できる。
13	スポーツ鍼灸と全身治療①	全身治療の方法を実践できる。
14	スポーツ鍼灸と全身治療②	全身治療の方法を実践できる。
15	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。

[成績評価について]

評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。
* 上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

[特記事項・授業時間外における学習]

リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	実践はりきゅう実技			必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
東 路 子 森 大 輔											

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、リスク管理や正確なカルテ作成など、現場で即戦力となる実技を指導を行う。
 単なる手技の習得に留まらず、受け入れから施術完遂までを「一気通貫」で体験することで、プロの視点を養う。本授業では、全身と局所の最適な判断と時間管理が求められる。仲間と知恵を出し合い、予習で蓄えた知識を「生きた技術」へと変えるための授業を展開する。

[到達目標]

鍼灸師に必要な臨床能力を身に付けることができる。①良好な人間関係 ②情報収集能力 ③問題点抽出 ④計画立案 ⑤基本手技 ⑥医療者の姿勢 ⑦カルテの作成 ⑧リスク管理 ⑨時間管理

[使用教材、参考文献等]

ずっと使える！鍼灸臨床Book

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	概要説明 リスク管理 実技チェック	⑤⑧リスク管理について理解し安全操作を実践できる。
2	カルテの書き方 グループ作成(3人1グループ)	①②⑦良好な人間関係を育み、診療記録の作成から問題点抽出、治療計画の流れを実践できる。
3	問診表作成	①②⑥ グループで協力しながらオリジナル問診表を作成できる。
4	全身治療	②③④⑤ 局所治療ではなく全身治療を実践することができる。
5	1 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
6	1 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
7	2 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
8	2 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
9	3 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
10	3 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
11	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。
12	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。
13	カンファレンス	患者情報をカンファレンスで共有し、次回施術への準備をすることができる。
14	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。
15	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。

[成績評価について]

カルテ提出により評価とする
 全5回(ただし診療録なので提出必須とする)11-12回目、14-15回目は①～⑨をルーブリック評価とする。

[特記事項・授業時間外における学習]

5・6、7・8、9・10は、どちらかが患者役となる(カルテ提出なし)

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	臨床実習Ⅱ			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	90(2)	授業回数	—
鳥海 崇											

[授業の学習内容と心構え]

5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が鍼灸師のスペシャリストを目指すために患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。

[到達目標]

挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。

[使用教材、参考文献等]

デイリーノート

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
2	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
3	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
4	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
5	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
6	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
7	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
8	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
9	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
10	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
11	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
12	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
13	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
14	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
15	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける

[成績評価について]

評価は別途評価表で行なう。評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			担当教員	高橋 顕三		
授業科目名	学年	3	開講区分	前期			
	必修・選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数

[授業の学習内容と心構え]

スポーツ(生涯スポーツ・競技スポーツ)の知見を有し、様々な年代の運動機能向上のためトレーナーとして地域医療に貢献する教員が、現場に必要な知識・技術を伝える。現場や治療院での患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

[到達目標]

患者に合わせた運動プログラムの作成ができるようになる。スポーツの競技特性が理解できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
2	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
3	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
4	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成 確認試験	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
5	身体評価①	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
6	身体評価②	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
7	身体評価③	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
8	身体評価④	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
9	身体評価⑤	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
10	身体評価⑥	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
11	身体評価⑦	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
12	身体評価⑧	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
13	身体評価⑨	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
14	身体評価⑩	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
15	期末試験	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる

[成績評価について]

評価は筆記試験(50点)およびレポート(50点)で行う。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	総合基礎特講			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
今井紀代子 / 酒井大樹											

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学を分野ごとに演習する。また鍼灸治療に必要な基礎および応用分野を演習し、知識を深める授業を行う。

[到達目標]

鍼灸師を志す者にとっての基礎となる科目であり、技術的なことはもちろん、治療家としての心構えを構築する大切な内容であるため、しっかり理解を深める。

[使用教材、参考文献等]

はりきゅう理論(医道の日本社)、配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	生理学: 第7章(排泄)の演習	排泄の分野について理解を深める
2	生理学: 第11章(筋)の演習	筋の分野について理解を深める
3	生理学: 第12章(筋)の演習	運動の分野について理解を深める
4	はりきゅう理論: 鍼について総合的に学ぶ	鍼について理解できる。
5	はりきゅう理論: 灸について総合的に学ぶ	灸について理解できる。
6	はりきゅう理論: リスク管理・有害事象について総合的に学ぶ	リスク管理・鍼灸治療における有害事象について理解できる。
7	はりきゅう理論: 前半全般の復習	はりきゅう理論前半部分全般の問題演習を通して苦手部分を確認する。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。(はりきゅう理論基礎分野全範囲)
9	第8章 1)運動 2)内臓の調節	自律神経について理解できる。
10	第8章 2)内臓の調節 第9章 消化器系と鍼・泌尿器系と鍼	自律神経の小テストを行い、その後鍼が自律神経に与える影響を理解できる。
11	第8章 3)感覚	鍼が自律神経に与える影響の小テストを行い、その後感覚について理解することができる。
12	第9章 鎮痛	感覚の小テストを行い、その後鎮痛について理解することができる。
13	第8章 4)熱傷 第9章 循環器と鍼灸	鎮痛の小テストを行い、その後炎症について勉強し、軸索反射を理解することができる。
14	総復習	全ての範囲の復習を行い、期末試験の準備ができる。
15	期末テスト解説	効果測定を行い、自分の課題に気づくことができる。

[成績評価について]

確認テスト50点、期末テスト50点とし、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

[特記事項・授業時間外における学習]

必要に応じ、プリントを配布する。既に一度学習したことのある内容になるため、教科書の他、これまでに学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前コース			学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	総合基礎特講			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる内科疾患および病理学を分野ごとに演習する。また鍼灸治療に必要な基礎および応用分野を演習し、知識を深める授業を行う。

〔到達目標〕

鍼灸師を志す者にとっての基礎となる科目であり、技術的なことはもちろん、治療家としての心構えを構築する大切な内容であるため、しっかり理解を深める。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版:第2版)、新版経絡経穴概論(医道の日本社)、新版東洋医学臨床論(はりきゆう編)、病理学概論(医歯薬出版:第2版)、臨床医学総論(医歯薬出版:第2版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	臨床医学総論	神経系の診察を理解する。
2	臨床医学総論	運動機能検査を理解する。
3	臨床医学総論	主な症状の診察法を理解する。
4	臨床医学総論	主な症状の診察法を理解する。
5	臨床医学総論	主な症状の診察法を理解する。
6	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	病理学 第10章 先天性異常	先天性異常を理解する。
8	病理学 第9章 免疫異常・アレルギー	免疫異常・アレルギーを理解する。
9	病理学 第8章 腫瘍	腫瘍を理解する。
10	病理学 第8章 腫瘍	腫瘍を理解する。
11	病理学 第7章 炎症	炎症を理解する。
12	病理学 第7章 炎症	炎症を理解する。
13	病理学 第7章 炎症	循環障害を理解する。
14	期末試験	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解説	期末試験の解答解説を行う。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必ず復習をすること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	後期	担当教員 深山 俊			
授業科目名 総合臨床特講	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸師として臨床で現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、臨床医学各論・総論についての理解の仕方、考え方を解説する。疾病の理解の仕方、症状の理解の仕方を学んで欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。□

[到達目標]

疾病や症状について、それらの発生機序を解剖学・生理学から考えられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

解剖学・生理学・臨床医学各論(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・内分泌系の解剖・生理の復習	内分泌系の解剖・生理の復習
2	内分泌系の臨各の復習	内分泌系の臨各についての復習
3	内分泌系の臨各の復習(内分泌系 小テスト)	内分泌系の臨各についての復習
4	消化器系の解剖・生理学の復習	消化器系の解剖・生理学の復習
5	消化器系の解剖・生理学の復習	消化器系の解剖・生理学の復習
6	消化器系の臨各の復習	消化器系の臨各の復習
7	消化器系の臨各の復習(消化器系 小テスト)	消化器系の臨各の復習
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	呼吸器系の解剖・生理学の復習	呼吸器系の解剖・生理学の復習
10	呼吸器系の解剖・生理学・臨各の復習	呼吸器系の解剖・生理学・臨各の復習
11	呼吸器系の臨各の復習(呼吸器系 小テスト)	呼吸器系の臨各の復習
12	泌尿器系の解剖・生理学の復習	泌尿器系の解剖・生理学の復習
13	泌尿器系の臨各の復習	泌尿器系の臨各の復習
14	泌尿器系の臨各の復習(泌尿器系 小テスト)	泌尿器系の臨各の復習
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は小テスト(5点×4=20点)確認テスト(30点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

[特記事項・授業時間外における学習]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。過去問なども自分で解いてみて、苦手なところを把握すること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午前コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 藤掛雅博 / 酒井大輝			
授業科目名 卒業演習	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床に必要な知識(基礎科目・臨床科目・臨床推論)を修得できるよう。講義や演習、ケーススタディなどを総合的に行う。

[到達目標]

基礎知識が向上し、症例に対する臨床推論ができるようになる。

[使用教材、参考文献等]

配布プリント

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
2	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
3	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
4	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
5	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
6	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
7	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
8	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
9	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
10	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
11	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
12	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
13	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
14	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
15	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。

[成績評価について]

筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

--	--

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	解剖学Ⅲ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
山田 英史										

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法を知るために人体の構造を理解を深めるために授業展開する。
 医療現場において各疾患の施術経験を有した教員が、解剖学の復習をして国家試験問題の解法を解説していく。

〔到達目標〕

1・2年で学習した解剖学の知識を統合させ、国家試験問題を解くことができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版) 国家試験問題集

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	第1章 人体の構成	細胞、組織、体表構造を理解し国家試験の過去問が解ける。
2	第2章 循環器系①	血管系、心臓、動脈系を理解し国家試験の過去問が解ける。
3	第2章 循環器系②	静脈系、胎児循環、リンパ系を理解し国家試験の過去問が解ける。
4	第3章 呼吸器系	鼻腔・副鼻腔、気管と気管支、肺を理解し国家試験の過去問が解ける。
5	第4章 消化器系①	口腔、咽頭、食道、胃を理解し国家試験の過去問が解ける。
6	第4章 消化器系②	小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜を理解し国家試験の過去問が解ける。
7	第5章 泌尿器系	腎臓、尿路を理解し国家試験の過去問が解ける。
8	中間テスト	1～7で習得した知識の再確認ができる。
9	第6章 生殖器系	男性生殖器、女性生殖器、受精と発生を理解し国家試験の過去問が解ける。
10	第7章 内分泌系①	下垂体、松果体、甲状腺を理解し国家試験の過去問が解ける。
11	第7章 内分泌系②	上皮小体、副腎、膵臓、性腺を理解し国家試験の過去問が解ける。
12	第8章 神経系①	神経系の構成、中枢神経系を理解し国家試験の過去問が解ける。
13	第8章 神経系②	伝導路、末梢神経系を理解し国家試験の過去問が解ける。
14	第9章 感覚器系	視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器を理解し国家試験の過去問が解ける。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

筆記試験にて評価を行う。評価は学則規定に準ずる。
 筆記試験は中間テスト(得点の45%)と期末テスト(得点の55%)の合計100点で評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

復習を行い知識定着に努めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員		今井 紀代子	
授業科目名	生理学Ⅲ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学を各分野ごとに演習し、知識を深める授業を行う。

[到達目標]

医療系を志す者にとっての基礎となる科目であり、他の応用科目の礎となる内容であるため、しっかり理解を深める。

[使用教材、参考文献等]

生理学(医歯薬出版)、配布資料

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第1章(生理学の基礎)の演習	生理学の基礎の分野について理解を深める
2	第4章(消化と吸収)の演習	消化と吸収の分野について理解を深める
3	第5章(代謝)の演習	代謝の分野について理解を深める
4	第8章(内分泌)を演習	内分泌の分野について理解を深める
5	第9章(生殖・成長と老化)の演習	生殖・成長と老化の分野について理解を深める
6	第10章(神経一般)の演習	神経一般の分野について理解を深める
7	第10章(自律神経)の演習	自律神経の分野について理解を深める
8	第13章(感覚)の演習	感覚の分野について理解を深める
9	中間テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
10	テスト返却。第6章(体温)の演習	体温の分野について理解を深める
11	第2章前半[循環(血液)]の演習	循環(血液)の分野について理解を深める
12	第14章(生体防御機構)の演習 第15章(身体活動の協調)の演習	生体の防御機構の分野、身体活動の協調について理解を深める
13	第2章後半[循環(心臓)]の演習	循環(心臓)の分野について理解を深める
14	第3章(呼吸)の演習	呼吸の分野について理解を深める
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。中間テスト(35点)、期末テスト(50点)、小テスト(15点)の合計100点で評価する。期末テストは中間テストの範囲も含む。評価は学則規定に準ずる。
100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。再試験は15コマ分の全ての範囲で実施する。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

[特記事項・授業時間外における学習]

必要に応じ、プリントを配布する。
既に一度学習したことのある内容になるため、教科書はもちろん、これまでに学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 臨床医学各論Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇するであろう疾患について授業を展開する。社会の複雑化によって、鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法が多様化してきている。そのために国家試験問題を通して医療の基本を身に付け、応用力を養う。

[到達目標]

基本的な疾患ごとに基本的な病態生理を理解でき、主な症候を答えることができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学各論(医歯薬出版社:第2版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第11章 神経疾患	脳血管疾患、認知症を理解する。
2	第11章 神経疾患	運動ニューロン疾患を理解する。
3	第11章 神経疾患	筋疾患、基底核変性疾患を理解する。
4	第11章 神経疾患	末梢神経性疾患を理解する。
5	第11章 神経疾患	神経痛、機能的疾患を理解する。
6	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	第9章 循環器疾患	心臓疾患、冠動脈疾患を理解する。
8	第9章 循環器疾患	心臓疾患、冠動脈疾患を理解する。
9	第10章 血液・造血器疾患	赤血球・白血球疾患、出血性素因を理解する。
10	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病を理解する。
11	第12章 リウマチ性疾患・膠原病	リウマチ性疾患、膠原病を理解する。
12	第13章 その他の疾患	精神科疾患・心療内科を理解する。
13	第13章 その他の疾患	婦人科疾患を理解する。
14	第13章 その他の疾患	期末試験の解答解説を行う。
15	期末テスト 解説	

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 3	開講区分 前期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 臨床医学各論Ⅱ	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15		

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床現場で遭遇するであろう疾患について授業を展開する。社会の複雑化によって、鍼灸師の臨床現場で求められる病気や治療法が多様化してきている。そのために国家試験問題を通して医療の基本を身に付け、応用力を養う。

[到達目標]

基本的な疾患ごとに基本的な病態生理を理解でき、主な症候を答えることができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学各論(医歯薬出版社:第2版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	第13章 その他の疾患	一般外科(損傷概論、ショック)を理解する。
2	第13章 その他の疾患	一般外科(外科的感染症、救急処置、心肺蘇生術)を理解する。
3	第13章 その他の疾患	小児科疾患を理解する。
4	第13章 その他の疾患	麻酔科を理解する。
5	第13章 その他の疾患	皮膚科疾患を理解する。
6	第13章 その他の疾患	加齢に伴う病態を理解する。
7	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
8	第2章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患、腸疾患を理解する。
9	第3章 肝・胆・膵疾患	肝臓疾患、胆道疾患、膵臓疾患を理解する。
10	第5章 腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器疾患を理解する。
11	第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患を理解する。
12	第4章 呼吸器疾患	アレルギー性疾患、拘束性呼吸器疾患、その他の呼吸器疾患を理解する。
13	第6章 整形外科疾患	総論、関節疾患、骨代謝疾患、骨腫瘍、筋腱疾患、形態異常を理解する。
14	第6章 整形外科疾患	脊椎疾患、脊髄損傷、外傷、その他の整形外科疾患を理解する。
15	期末試験	期末試験の解答解説を行う。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	リハビリテーション医学Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数	30(1)	授業回数	15
東野 友寛										

〔授業の学習内容と心構え〕

~~治療院勤務、出張施術、トレーナー帯同を経験し、高齢者・学生からアスリート・アーティストまで幅広く対応している教員が、リハビリテーションの捉え方や評価方法を理解し国家試験・臨床に活かしていくための授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。~~

〔到達目標〕

リハビリテーション医学Ⅰで学んだことが実際の疾患になるとどのように活かされるかを理解する。これによってリハビリテーション医学を試験で解く際や臨床で活かせるようにすること。

〔使用教材、参考文献等〕

新版リハビリテーション医学(文光堂)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	脳血管障害	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
2	脳血管障害、パーキンソン病	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
3	その他神経疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
4	小テスト	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
5	脊髄損傷	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
6	脊髄損傷、切断	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
7	関節リウマチ、スポーツ外傷	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
8	確認テスト	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。
9	内部障害(虚血性心疾患、呼吸器疾患)	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
10	内部障害(糖尿病、腎・尿路疾患)	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
11	高齢者に多くみられる疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
12	小児疾患(脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎)	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
13	がん、整形外科疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
14	整形外科疾患	各疾患の特徴・治療の要点・リスク管理を理解する。
15	期末テスト 解説	現時点での理解度、習得できていないところを把握し、理解を深める。

〔成績評価について〕

評価は小テスト、確認テスト、小テストで行う。小テスト(10点×2回)+確認テスト(30点)+期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。例年小テスト確認テストで数点ずつ取っていただければ合格のものが多いので気を抜かずに望んでほしい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	学年	3	必修・選択	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
						高濱 晴美			

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸師として業を行うために必要な法的要件を講義形式で行う。

[到達目標]

あはき業に従事する上で理解しておくべき法令を学び、医療従事者としての知識を深めることを目的とする。

[使用教材、参考文献等]

関係法規(医歯薬出版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 「法とは何か」「あはき法の法制定の目的」	医療関係の法の目的について理解できる。
2	あはき法 免許と試験	免許の要件や試験について理解できる。
3	あはき法 業務①	業務の範囲や施術所の要件を理解できる。
4	あはき法 業務②	広告の制限や医療行為について理解できる。
5	あはき法 学校・養成施設、罰則について	学校の教育内容、施設などについて理解し罰則について理解できる。
6	関係法規 医療法	医療法規の大要を把握することができる。
7	医師法 その他の医療従事者に関する法律	医師法について理解し、医療従事者の資格法の差異を理解することができる。
8	薬事法規 保健一般に関する法律 確認テスト	医薬品、医療機器等の有効性及び安全性確保に関する法律を理解することができる。
9	衛生に関する法律	母体保護法や精神障害者福祉に関する法律を理解することができる。
10	社会福祉関係法規	社会福祉法の概要を把握することができる。
11	健康保険法、国民健康保険法	健康保険法と国民健康保険法の差異を理解することができる。
12	高齢者の医療 介護保険法	高齢者の医療に関する法律と介護保険法の概要を理解することができる。
13	生活保護法 医療保険制度	わが国の医療保険制度を理解する。
14	要点整理 総復習	関係法規全般を復習し、習熟度を高めることができる。
15	期末テスト 復習	テストにより効果測定を行い、解説によって理解を深めることができる。

[成績評価について]

筆記試験にて評価をおこなう。
評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 3	開講区分 後期	担当教員 藤掛 雅博		
授業科目名 東洋医学特論	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、東洋医学的な病態生理に関して問題演習を通じて理解を深めるための授業を展開する。

[到達目標]

今まで学習した東洋医学の知識を統合させ、国家試験や鍼灸治療に役立てられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

新版東洋医学概論(医道の日本社)、新版経絡経穴概論(医道の日本社)、新版東洋医学臨床論(はりきゅう編)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	経絡経穴概論、東洋医学概論	概論、流注、奇経、気・血・津液、三因極を理解する。
2	経絡経穴概論、東洋医学概論	骨度法、要穴、八綱病証、脈を理解する。
3	経絡経穴概論、東洋医学概論	手、足の取穴 経絡病証、六経弁証を理解する。
4	経絡経穴概論、東洋医学概論	背部、胸部、腹部の取穴を理解する。 四診、治療方針を理解する。
5	経絡経穴概論、東洋医学概論	奇穴、組合せ穴、経絡現象 治療原則を理解する。
6	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	東洋医学臨床論 第2章 各論 第1節	頭痛、顔面痛、胸痛、腹痛を理解する。
8	東洋医学臨床論 第2章 各論 第1節	関節痛、頸肩腕痛、上肢痛、肩関節痛腰下肢痛、下肢痛、膝痛を理解する。
9	東洋医学臨床論 第2章 各論 第2節	肝系統を理解する。
10	東洋医学臨床論 第2章 各論 第2節	心系統、脾系統、肺系統を理解する。
11	東洋医学臨床論 第2章 各論 第2節、第3節	腎系統、浮腫を理解する。
12	東洋医学臨床論 第2章 各論 第4節、第5節	顔面麻痺、歩行異常、出血傾向、月経異常を理解する。
13	東洋医学臨床論 第2章 各論 第6節、第7節	小児特有の症候と老年特有の症候を理解する。
14	期末試験	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解答解説	期末試験の解答解説を行う。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	東洋医学臨床論Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、過去学習してきた臨床医学各論・東洋医学概論・経絡経穴概論の知識を深め西洋医学的・東洋医学的見知から疾患への理解向上を図る授業を展開する。鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズム、治療法を理解する。□

〔到達目標〕

鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズムから治療法に対する理解を深め、国家試験を通過できるだけの知識を有する。□

〔使用教材、参考文献等〕

新版東洋医学概論・新版経絡経穴概論・新版東洋医学臨床論(はりきゅう編) □

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	【復習①】気・血・津液弁証	気・血・津液の生理と病態を理解し所見から弁証することが出来る。
2	【復習②】臓腑弁証(肝・心・脾)	臓腑の生理と病態を理解し所見から弁証することができる。
3	【復習③】臓腑弁証(肺・腎)	臓腑の生理と病態を理解し所見から弁証することができる。
4	2-3. V. 便秘 便秘を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト①10点	便秘を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
5	2-3. VI. 下痢 下痢を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する	下痢を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
6	3- I. 疲労と倦怠 疲労を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト②5点	疲労と倦怠を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
7	II. 発熱 発熱を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト①	発熱を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
8	中間テスト 30点	気血津液弁証・臓腑弁証・便秘・下痢・疲労と倦怠・発熱について学習した内容を確認する。
9	III. 冷え 冷えを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	冷えを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
10	IV. のぼせ のぼせを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	のぼせを引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
11	V. 浮腫 浮腫を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト③5点	浮腫を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
12	VI. 掻痒感(かゆみ)を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	掻痒感を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
13	4- I. 顔面麻痺を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト④5点	顔面神経麻痺を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
14	II. 歩行異常 歩行異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト⑤5点	歩行異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知を理解し治療法を考えることが出来る。
15	期末テスト 40点	疲労と倦怠、発熱、冷えのぼせ、浮腫、掻痒感・顔面麻痺・歩行異常について学習した内容を確認する。

〔成績評価について〕

中間テスト 30点
 期末テスト 40点
 小テスト30点
 筆記試験及びフォームスで実施し合計100点として科目の評価とする。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

予習課題を実施。内容は事前にteamsにより告知。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	後期	担当教員	
授業科目名	東洋医学臨床論Ⅱ		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)
							授業回数	15
							藤井 優子	

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、過去学習してきた臨床医学各論・東洋医学概論・経絡経穴概論の知識を深め西洋医学的・東洋医学的見知から疾患への理解向上を図る授業を展開する。鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズム、治療法を理解する。□

〔到達目標〕

鍼灸臨床で遭遇する疾患のメカニズムから治療法に対する理解を深め、国家試験を通過できるだけの知識を有する。□

〔使用教材、参考文献等〕

新版東洋医学概論・新版経絡経穴概論・新版東洋医学臨床論(はりきゅう編) □

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	Ⅲ. 口渇を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	口渇を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
2	Ⅳ. 出血傾向を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト①	出血傾向を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
3	5-Ⅰ. 月経異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト②	月経異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
4	Ⅱ. 月経異常を引き起こす疾患を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	月経異常を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
5	Ⅲ. 性器出血を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト③	性器出血を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。
6	Ⅳ. 帯下を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	帯下を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
7	Ⅴ. 不妊症を引き起こす疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト④	不妊症を引き起こす疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
8	中間テスト①	口渇・出血傾向・月経異常・性器出血・帯下・不妊症について理解し問題を解くことができる。
9	Ⅵ. 悪阻・Ⅶ. 逆子の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	悪阻・逆子の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
10	Ⅷ. 乳汁分泌不全の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	乳汁分泌不全の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
11	6-Ⅰ. 小児疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト⑤	小児の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
12	Ⅱ. 小児疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	小児の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
13	7-Ⅰ. 老年特有の疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。小テスト⑥	老年特有の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
14	Ⅱ. 老年特有の疾患の病態を西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認する。	老年特有の疾患の西洋医学的・東洋医学的見知から把握し治療法を確認することができる。
15	期末テスト	悪阻・逆子・乳汁分泌不全・小児疾患・老年の症候について理解し問題を解くことができる。

〔成績評価について〕

中間テスト 30点
 期末テスト 40点
 小テスト30点
 筆記試験及びフォーラムスで実施し合計100点として科目の評価とする。□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

予習課題を実施。内容は事前にteamsにより告知。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員	大石 知絵子		
授業科目名	東洋医学臨床実践		必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、四診の基本となる舌診と脈診を解説し、気血津液弁証・臟腑弁証の基本的な処方と講義する。自分が臨床現場に出てから、どのように鍼灸を用いるのかを考えながら受講してほしい。□

〔到達目標〕

東洋医学の考え方による治療の基礎となる舌診、脈診を実践する。臨床で多く使用される気血津液弁証と臟腑弁証を理解し、各弁証取穴を知る。要穴(五行穴・五要穴)の取穴部位を覚え、迷いなく刺鍼できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸BOOK、中医臨床のための舌診と脈診□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	導入・舌診と脈診	中医学の概要と舌診・脈診について理解できる
2	舌診と脈診	舌診と脈診の臨床応用を理解できる
3	気虚証の治療	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
4	気滞証の治療 (小)	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
5	血虚証の治療	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
6	血瘀証の治療 (小)	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
7	陰虚証の治療	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
8	痰湿証の治療 (小)	気血津液弁証の理解と治療の実践できる
9	テスト1	気血津液弁証の理解度を確認する
10	臟腑弁証の処方1	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
11	臟腑弁証の処方2	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
12	臟腑弁証の処方3 (小)	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
13	臟腑弁証の処方4	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
14	臟腑弁証の処方5 (小)	臟腑弁証の理解と治療の実践ができる
15	テスト2	臟腑弁証の理解度を確認する

〔成績評価について〕

評価基準は学則に則り行う。
 テスト1: 気血津液弁証に関する問題(30点、四者択一、フォーム)
 テスト2: 臟腑弁証に関する問題(30点、四者択一、フォーム)
 テスト3: 中国鍼の刺鍼実技(30点、実技)
 テスト4: 経筋に関する問題(30点、四者択一、フォーム)
 小テスト: 要穴(五行穴、五要穴)の取穴部位(筆記)□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

- ・白衣着用、サンダル着用、手の爪は短く切り清潔に保つこと
- ・講義中の飲食は原則禁止(缶の持ち込み不可)
- ・講義の録画・録音・撮影は禁止
- ・資料等の共有、外部への持ち出し、公開は禁止
- ・小テストは筆記用具持参(忘れた場合は0点)
- ・フォーム形式での試験は、PC・タブレットのみ可

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名			必修・選択	必修	授業形態	実習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
東洋医学臨床実践		大石 知絵子								

〔授業の学習内容と心構え〕

中国に留学経験のある開業鍼灸師で、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、四診の基本となる舌診と脈診を解説し、気血津液弁証・臓腑弁証の基本的な処方を講義する。自分が臨床現場に出てから、どのように鍼灸を用いるのかを考えながら受講してほしい。□

〔到達目標〕

東洋医学の考え方による治療の基礎となる舌診、脈診を実践する。臨床で多く使用される気血津液弁証と臓腑弁証を理解し、各弁証取穴を知る。要穴(五行穴・五要穴)の取穴部位を覚え、迷いなく刺鍼できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸BOOK、中医臨床のための舌診と脈診□

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	督脈通陽法 (小)	督脈に灸頭鍼を施す
2	皮内鍼	皮内鍼の基本操作を実践する
3	中国鍼 (小)	中国鍼の刺鍼操作を実践する
4	中国鍼	催気法と動的補瀉法を学ぶ
5	中国鍼 (小)	中国鍼の刺鍼と動的補瀉法の復習
6	テスト3	中国鍼の刺鍼と動的補瀉法
7	頭皮針 (小)	朱氏頭皮針を実践する
8	頭皮針	朱氏頭皮針を実践する
9	頭皮針 (小)	朱氏頭皮針を実践する
10	経筋学	経筋学を学ぶ
11	経筋学 手三陰経筋 肩関節	経筋を用いた治療法を実践する
12	経筋学 手三陰経筋 頸部	経筋を用いた治療法を実践する
13	経筋学 手三陰経筋 股関節	経筋を用いた治療法を実践する
14	経筋学 手三陰経筋 腰部	経筋を用いた治療法を実践する
15	テスト4	経筋学

〔成績評価について〕

評価基準は学則に則り行う。
 テスト1: 気血津液弁証に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 テスト2: 臓腑弁証に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 テスト3: 中国鍼の刺鍼実技(30点、実技)
 テスト4: 経筋に関する問題(30点、四者択一、フォームス)
 小テスト: 要穴(五行穴、五要穴)の取穴部位(筆記)□

〔特記事項・授業時間外における学習〕

- ・白衣着用、サンダル着用、手の爪は短く切り清潔に保つこと
- ・講義中の飲食は原則禁止(缶の持ち込み不可)
- ・講義の録画・録音・撮影は禁止
- ・資料等の共有、外部への持ち出し、公開は禁止
- ・小テストは筆記用具持参(忘れた場合は0点)
- ・フォームス形式での試験は、PC・タブレットのみ可

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	3	開講区分	後期	担当教員 小池 俊治			
授業科目名 特殊鍼灸療法学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

古代九鍼の継承と実践を行う団体に所属する鍼灸師が、毫鍼だけでなく刺絡鍼法・火鍼などの特殊鍼法を実技で実践する授業を行なう。実技と合わせて、中医弁証の実際についても講義を行い、証を立てて治療方針が立てられるようにする。

[到達目標]

九鍼の考え方、実際の使用方法に至るまでを学習、実践できるようになる。また、渡洋医学概論・臨床論の復習を行い、自分の力で症例を解いて、治療方針を立てられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

新版東洋医学概論(医歯薬出版)ビジュアルでわかる九鍼実技解説

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス 中医基礎理論の全体構造 毫鍼実技	中医基礎理論の全体像が理解できる。
2	症例トレーニング① 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
3	症例トレーニング② 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
4	症例トレーニング③ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
5	症例トレーニング④ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
6	症例トレーニング⑤ 毫鍼実技	手順通りに症例が解ける。毫鍼の扱いができる。
7	確認テスト	筆記試験で効果測定を行なう。
8	刺絡についての講義と実技①	刺絡についての理解を深めることができる。
9	刺絡の実技②	刺絡についての理解を深めることができる。
10	刺絡の実技③	刺絡の実技が出来るようになる。
11	刺絡の実技④	刺絡の実技が出来るようになる。
12	火鍼についての講義と実技①	火鍼についての理解を深めることができる。
13	火鍼の実技②	火鍼の実技が出来るようになる。
14	総合実技	これまで学んだ実技を組み合わせて治療できる。
15	期末テスト	筆記試験で効果測定を行なう。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

必要に応じプリントが配布される。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 3	開講区分 前期	担当教員 藤井 優子		
授業科目名 古典・経絡治療学	必修・選択 必修	授業形態 実習	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15	

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、筋・骨などの局所治療の知識だけでなく、鍼灸治療の根幹をなす「経絡」の変動から患者の不調を見極める鍼灸師となるための授業を展開する。主に経絡治療の基礎である陰陽の概念の習得や脈診・腹診・切経を用いた診断技術の向上を目指す。

〔到達目標〕

四診を用いて患者の診察・診断を行い1人で治療方針を組み立てる事が出来る。□

〔使用教材、参考文献等〕

経絡治療のすすめ(首藤傳明)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	経絡治療の基本的な考え方。本治法、標治法について。脈診を行う姿勢を学び実践する。	本治法・標治法の違いを理解する。正しい姿勢で脈を取ることが出来る。
2	六部定位脈診を行う。脈診部での臓腑配当を理解し目的の深さ・位置で脈の状態を把握する。	臓腑配当を理解する。自分がどの深さで何を診るのかを明確にし最も弱い部位を探し出す事が出来る。
3	六十九難による配穴法。六部定位脈診によって得られた情報から経穴を選び、刺鍼によって脈に変化が出るかを検証する。	六十九難の配穴法を理解し、経穴を正しく選ぶことが出来る。刺鍼による脈の変化を感じることが出来る。
4	祖脈診を行う。浮・沈・遲・数・虚・実を見極め、患者の全身状態を把握できるようにする。	祖脈の意味、どの深さで何を診るのかを理解し全身状態を把握することが出来る。
5	愈刺鍼を行う。背部俞穴を用い患者の全身治療を行う。愈刺による脈状の変化をみる。	背部俞穴を用いる意義を理解する。鍼による全身への効果を脈の変化から感じられる。
6	中間テスト。脈診の基礎である六部定位脈診・祖脈診と難経六十九難の配穴の確認を行う。	六部定位脈診・祖脈診の意義を理解し、六十九難の配穴法を用いて経穴を選択することが出来る。
7	腹診を行う。腹診の意義、腹部の触診の仕方を学び実践する。	腹診を行う意義を理解し、患者に不快感を与えることなく触診できる技術を身につける。
8	腹診を行う。腹診から得られた情報と脈診を照らし合わせ全身状態を把握し治療方針を検討する。	腹診と脈診の情報から全身状態を把握することができる。
9	経筋病(上肢): 経筋とは何か理解し上肢の病に対して障害経筋を選び刺鍼による変化をみる。	上肢の運動に関係する経筋を理解し、障害経筋を適切に見つけることができる。
10	経筋病(下肢): 経筋とは何か理解し下肢の病に対して障害経筋を選び刺鍼による変化をみる。	下肢の運動に関係する経筋を理解し、障害経筋を適切に見つけることができる。
11	体質と病証の関係を理解する。脈診、腹診などの症状と体質の関係を理解し治療方針を立てる。	体質と病証の関係を理解し、治療方針を立てることができる。
12	問診練習: 必要な患者情報を引き出す。	治療方針を検討するために必要な患者情報を適切に引き出すことができる。
13	グループワーク: 5人1組で問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	患者情報から治療方針を組み立て実践することができる。
14	期末テスト: 問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	自ら考え最後まで治療の流れを組み立てることができる。
15	期末テスト: 問診、触診などの情報から治療方針を組み立て模擬患者への治療を行いカルテ記入する	自ら考え最後まで治療の流れを組み立てることができる。

〔成績評価について〕

中間テスト 筆記(50点)
期末テスト レポート課題(50点)

〔特記事項・授業時間外における学習〕

日々、家族やクラスメイト、自身の脈診を行い体調による変化を観察する。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	はきの適応判断学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
							山田英史先生			

〔授業の学習内容と心構え〕

開業鍼灸師であり、東洋医学的施術を通じ地域の健康増進に貢献している教員が、病態生理学、臨床医学総論、臨床医学各論で得た知識を基に、患者の症状から病態を把握し、鍼灸治療の適応の可もしくは否かを的確に判断することで実際の臨床に役立つ知識を習得するための授業を展開する。

〔到達目標〕

西洋医学的な診断方法と東洋医学的な診断方法を習得し、その診断から治療方針などをたてて実際に治療できるようになる。病態生理や症状より鍼灸治療の適応の可か否かを判断できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

配布資料 はりきゅう実技基礎編(医道の日本)、病態生理、臨床医学総論、臨床医学各論、東洋医学臨床論

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	頭痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
2	顔面痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
3	顔面麻痺 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
4	胸痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
5	腹痛 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
6	腰下肢痛①	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
7	腰下肢痛②	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	頸肩腕痛①	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
10	頸肩腕痛②	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
11	肩関節痛 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
12	上肢痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
13	膝関節痛 小テスト	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
14	下肢痛	症状や検査などから鑑別診断ができるようになる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔成績評価について〕

筆記試験にて評価を行う。評価は学則規定に準ずる。
筆記試験は中間テスト(得点の45%)と期末テスト(得点の55%)の合計100点で評価する。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

臨床医学各論や臨床医学総論、病理学などを復習する。復習することで臨床に向けての心構えを養う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	学年	3	必修・選択	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
			必修						

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、鍼灸臨床に必要な基本的臨床技能を身につけるための講義を行う。
 模擬患者を用いた実践演習を通して、医療面接、評価、施術、説明、安全管理までの一連のプロセスを統合的に実践する。

〔到達目標〕

- ・鍼灸臨床における一連の診療プロセスを、安全かつ適切に実践できる。
- ・客観的評価基準に基づき、基本的臨床技能を再現性高く遂行できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	はりきゅう実技訓練(刺鍼技術①)	直刺、斜刺、横刺の基礎実技を確認し、深度・角度を調整して刺鍼ができる。
2	はりきゅう実技訓練(施灸技術①)	透熱灸の基礎実技を確認し、精度の高い施灸技術を再現できる。
3	はりきゅう実技訓練(刺鍼技術②)	直刺、斜刺、横刺の基礎実技を確認し、精度の高い刺鍼技術を再現できる。
4	はりきゅう実技訓練(施灸技術②)	八分灸の基礎実技を確認し、精度の高い施灸技術を再現できる。
5	検査法の実技訓練	臨床評価試験において求められる各種徒手検査法を復習し、未修得技術を確認・把握ができる。
6	検査法の実技訓練	臨床評価試験において求められる各種徒手検査法を正確に実施できる。
7	検査法の実技訓練	臨床評価試験において求められる関節可動域検査、反射検査法を正確に実施できる。
8	徒手検査法の確認試験	試験により徒手検査法の修練度と課題を客観的に把握できる。
9	模擬問題による医療面接・検査の演習	模擬症例に対し、問診情報を下に適切な検査を選択・実施し、所見を統合して臨床判断に結びつけることができる。
10	客観的臨床能力試験のプレ試験	OSCE形式のプレ試験を通じて、自身の臨床技能の到達度と課題を客観的に把握できる。
11	客観的臨床能力試験のプレ試験	OSCE形式のプレ試験を通じて、自身の臨床技能の到達度と課題を客観的に把握できる。
12	客観的臨床能力試験(医療面接)	OSCE形式の試験において、適切なコミュニケーションにより必要な情報を系統的に収集できる。
13	客観的臨床能力試験(各種検査法)	OSCE形式の試験において、聴取した情報を基に適切な検査を選択し、正確に実施・解釈できる。
14	客観的臨床能力試験(はり実技)	OSCE形式の試験において、適切な部位に安全かつ正確に鍼施術を実施できる。
15	客観的臨床能力試験(きゅう実技)	OSCE形式の試験において、適切な部位に安全かつ正確に灸施術を実施できる。

〔成績評価について〕

評価は医療面接、検査法、はり実技、きゅう実技による評価の合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

模擬症例であっても実際の患者を想定し、臨床と同等の意識で学習に望むこと。授業外では復習と反復練習を行い、技能・判断力・安全意識の向上に努めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			開講区分	前期	担当教員				
授業科目名	学年	3	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
進藤 千聖										

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。主に美容鍼灸を中心とし、各領域の機能およびメカニズムを理解し実践する。様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。

[到達目標]

様々な疾患に対して、その領域における構造およびメカニズムを理解し施術を実践できる。

[使用教材、参考文献等]

ずっと使える鍼灸BOOK

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 美容鍼灸ガイダンス	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
2	美容鍼①(鍼の効果と鍼理論)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
3	美容鍼②(顔面解剖、表情筋。人の印象は3秒で決まる)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
4	美容鍼③(美人・イケメンの定義とは?解剖学から考える)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
5	美容鍼④(咀嚼筋と身体つながり)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
6	美容鍼灸実践①	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。
7	美容鍼灸実践②	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。
8	美容鍼⑤(頭と顔のつながり。自律神経が与える影響)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
9	美容鍼⑥(いわゆる美肌とは?皮膚代謝のメカニズム)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
10	美容鍼⑦(美容鍼灸の可能性。美容医療との違い。)	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
11	胸椎を中心とした全身調整法と美容鍼灸	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
12	胸椎を中心とした全身調整法と美容鍼灸	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
13	胸椎を中心とした全身調整法と美容鍼灸	美容鍼灸領域における施術方法や施術部位の解剖学的知識を理解する。
14	美容鍼灸実践③	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。
15	美容鍼灸実践④	ペアワークを通して顔面部を中心とした評価と、対応する治療法を展開し実践できる。

[成績評価について]

レポート課題 5回×20点

[特記事項・授業時間外における学習]

毎回、タブレット等のデバイスを用いて施術前後の写真撮影を行い、評価を行ったポイントなどを記載して、レポート課題の作成に取り組むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	臨床はりきゅう実技			必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
進藤 千聖											

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、疾患の概要・評価・治療法を実技形式で教授する。主に美容鍼灸を中心とし、各領域の機能およびメカニズムを理解し実践する。様々な疾患に対しての知識・技術を習得する心構えを持って望んで欲しい。

〔到達目標〕

様々な疾患に対して、その領域における構造およびメカニズムを理解し施術を実践できる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える鍼灸BOOK

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	トリガーポイント治療	トリガーポイントの理解を深め、主要な筋肉のトリガーポイントへの刺鍼を行うことができる。
2	トリガーポイント治療	トリガーポイントの理解を深め、主要な筋肉のトリガーポイントへの刺鍼を行うことができる。
3	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
4	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
5	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
6	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
7	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
8	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
9	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
10	評価試験①	はり・きゅうに関する基本実技評価を行い、個々の課題を見つけることができる。
11	評価試験②	はり・きゅうに関する基本実技評価を行い、個々の課題を見つけることができる。
12	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
13	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
14	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。
15	症例に対する治療	医療面接・検査・病態鑑別・治療法の一連の流れができる。

〔成績評価について〕

レポート課題 5回×20点

〔特記事項・授業時間外における学習〕

毎回、タブレット等のデバイスを用いて施術前後の写真撮影を行い、評価を行ったポイントなどを記載して、レポート課題の作成に取り組むこと。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	スポーツ鍼灸			必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
鳥海 崇											

〔授業の学習内容と心構え〕

スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。評価の流れを考え、模倣できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	臨床実習	臨床実習について理解できる。
2	運動鍼の方法と実践①	いくつかの運動鍼の方法を理解できる。自動運動による運動鍼を実践できる。
3	運動鍼の方法と実践②	他動運動による運動鍼を実践できる。
4	M-testについての考え方と実践①	M-testの考え方を理解できる。
5	M-testについての考え方と実践②	M-testの考え方を理解し実践できる。
6	頭板状筋・頸板状筋・肩甲挙筋の低周波鍼通電	板状筋・肩甲挙筋の走行を理解し刺鍼できる。
7	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	頸部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
8	頸部のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)顔面神経・斜角筋群の低周波鍼通電	頸部の評価を実践し、関節への治療を模倣できる。顔面Nの走行・斜角筋の位置を理解し刺鍼できる。
9	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
10	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)肩甲帯筋の低周波鍼通電	肩部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
11	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)三角筋・大菱形筋・小菱形筋の低周波鍼通電	三角筋の走行を理解し刺鍼できる。菱形筋の位置を理解し安全に刺鍼できる。
12	肩部のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	肩部の評価方法を実践し、筋または関節への治療を模倣できる。
13	スポーツ東洋療法 女性とスポーツについて	女性とスポーツの関係について知る。
14	肩部・上肢スポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療)(評価をふまえた局所治療)胸郭出口症候群(TOS)の考え方 評価と治療	肩部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
15	上肢の低周波鍼通電	上腕二頭筋・上腕三頭筋と前腕筋群の走行を理解し刺鍼できる。

〔成績評価について〕

評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。
* 上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	3	開講区分	後期	担当教員 鳥海 崇			
授業科目名 スポーツ鍼灸	必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15

[授業の学習内容と心構え]

スポーツ現場や治療院等で鍼灸施術経験のある専任教員が、スポーツ傷害について身体各部位で起こりうる疾患を想定し、評価の考え方・治療の考え方を習得する授業を行なう。スポーツ鍼灸という分野であるが、一般患者にも通じる評価方法・治療法であることを考え受講してほしい。応用実技であるため、今まで受講した他の授業を復習し、自ら考えるよう授業に臨んでほしい。

[到達目標]

スポーツ鍼灸の考え方を学び、治療までの流れを習得する。
評価の流れを考え、模倣できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)梨状筋・坐骨神経の低周波鍼通電	股関節の評価方法を実践でき、梨状筋の走行・深さを理解し刺鍼できる。坐骨神経の刺鍼部位を理解し刺鍼できる。
2	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(筋への局所治療)	股関節の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
3	股関節のスポーツ疾患 評価と治療(関節への局所治療と遠隔治療)	股関節の評価方法を実践し、局所・遠隔治療を模倣できる。
4	腰背部のスポーツ疾患(筋への局所治療)	腰背部の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
5	腰背部のスポーツ疾患(関節への局所治療)	腰背部の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。椎間・仙腸関節の理解し刺鍼できる。
6	腰背部のスポーツ疾患	股関節の動作改善を合わせた腰背部の治療を模倣できる。
7	膝関節のスポーツ障害(腸脛靭帯炎・鷲足炎)	膝関節の慢性障害を理解し、対応する筋に治療を模倣できる。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。
9	膝関節のスポーツ疾患(筋への局所治療)	膝関節の評価方法を実践し、筋への治療を模倣できる。
10	膝関節のスポーツ疾患(筋・関節への局所治療)	膝関節の評価方法を実践し、関節への治療を模倣できる。
11	膝の慢性疾患における鍼灸治療と考え方	膝OAに関する考え方を理解し、治療法とセルフエクササイズの指示を模倣できる。
12	足関節・下肢のスポーツ疾患長腓骨筋・短腓骨筋の低周波鍼通電	足関節・下肢の評価方法を実践し、局所治療を模倣できる。
13	スポーツ鍼灸と全身治療①	全身治療の方法を実践できる。
14	スポーツ鍼灸と全身治療②	全身治療の方法を実践できる。
15	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得した技術と知識の確認を行ない、技術練習の必要性を理解できる。

[成績評価について]

評価は実技試験で行う。試験は3回確認テスト(各50点)を行い、そのうち点数の高い2回分の点数で評価する。評価は学則規定に準ずる。
* 上記テストについては原則、レポート課題提出とその評価が6割以上の評価を得られたもののみ採点を行う。

[特記事項・授業時間外における学習]

リスクを考えた上で授業に取り組むこと。リスクが少しでも考えられる刺鍼は必ず担当教員のアドバイスを求めること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名	実践はりきゅう実技		必修・選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
東 路 子 森 大 輔										

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、リスク管理や正確なカルテ作成など、現場で即戦力となる実技を指導を行う。
 単なる手技の習得に留まらず、受け入れから施術完遂までを「一気通貫」で体験することで、プロの視点を養う。本授業では、全身と局所の最適な判断と時間管理が求められる。仲間と知恵を出し合い、予習で蓄えた知識を「生きた技術」へと変えるための授業を展開する。

[到達目標]

鍼灸師に必要な臨床能力を身に付けることができる。①良好な人間関係 ②情報収集能力 ③問題点抽出 ④計画立案 ⑤基本手技 ⑥医療者の姿勢 ⑦カルテの作成 ⑧リスク管理 ⑨時間管理

[使用教材、参考文献等]

ずっと使える！鍼灸臨床Book

回	〔授業单元〕	到達目標(できるようになること)
1	概要説明 リスク管理 実技チェック	⑤⑧リスク管理について理解し安全操作を実践できる。
2	カルテの書き方 グループ作成(3人1グループ)	①②⑦良好な人間関係を育み、診療記録の作成から問題点抽出、治療計画の流れを実践できる。
3	問診表作成	①②⑥ グループで協力しながらオリジナル問診表を作成できる。
4	全身治療	②③④⑤ 局所治療ではなく全身治療を実践することができる。
5	1 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
6	1 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
7	2 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
8	2 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
9	3 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
10	3 患者と施術者 カルテ書き・提出	①～⑨ 臨床に必要な能力を身に付けることができる。
11	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。
12	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。
13	カンファレンス	患者情報をカンファレンスで共有し、次回施術への準備をすることができる。
14	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。
15	3年生の患者役 3人で施術 カルテ提出	初診の患者を受け入れて、局所治療・全身治療を実践することができる。

[成績評価について]

カルテ提出により評価とする
 全5回(ただし診療録なので提出必須とする)11-12回目、14-15回目は①～⑨をルーブリック評価とする。

[特記事項・授業時間外における学習]

5・6、7・8、9・10は、どちらかが患者役となる(カルテ提出なし)

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 3	開講区分 前期	担当教員 鳥海 崇			
授業科目名 臨床実習Ⅱ	必修・選択 必修	授業形態	実習	時間数(単位) 90(2)	授業回数	—

[授業の学習内容と心構え]

5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が鍼灸師のスペシャリストを目指すために患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。

[到達目標]

挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。

[使用教材、参考文献等]

デイリーノート

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
2	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
3	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
4	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
5	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
6	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
7	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
8	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
9	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
10	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
11	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
12	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
13	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
14	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
15	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場に必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける

[成績評価について]

評価は別途評価表で行なう。評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 高橋 顕三				
授業科目名 総合スポーツ演習Ⅱ	必修・選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

スポーツ(生涯スポーツ・競技スポーツ)の知見を有し、様々な年代の運動機能向上のためトレーナーとして地域医療に貢献する教員が、現場に必要な知識・技術を伝える。現場や治療院での患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

[到達目標]

患者に合わせた運動プログラムの作成ができるようになる。スポーツの競技特性が理解できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
2	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
3	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
4	健康運動指導員の役割と運動プログラムの作成 確認試験	高齢者の運動指導・提案ができるようになる。
5	身体評価①	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
6	身体評価②	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
7	身体評価③	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
8	身体評価④	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
9	身体評価⑤	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
10	身体評価⑥	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
11	身体評価⑦	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
12	身体評価⑧	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
13	身体評価⑨	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
14	身体評価⑩	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる
15	期末試験	静的・動的評価を理解し、治療に応用できる

[成績評価について]

評価は筆記試験(50点)およびレポート(50点)で行う。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

（この欄は空欄です）

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			学年	1	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	総合基礎特講			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
今井紀代子 / 酒井大樹											

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる生理学を分野ごとに演習する。また鍼灸治療に必要な基礎および応用分野を演習し、知識を深める授業を行う。

〔到達目標〕

鍼灸師を志す者にとっての基礎となる科目であり、技術的なことはもちろん、治療家としての心構えを構築する大切な内容であるため、しっかり理解を深める。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう理論(医道の日本社)、配布資料

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	生理学: 第7章(排泄)の演習	排泄の分野について理解を深める
2	生理学: 第11章(筋)の演習	筋の分野について理解を深める
3	生理学: 第12章(筋)の演習	運動の分野について理解を深める
4	はりきゅう理論: 鍼について総合的に学ぶ	鍼について理解できる。
5	はりきゅう理論: 灸について総合的に学ぶ	灸について理解できる。
6	はりきゅう理論: リスク管理・有害事象について総合的に学ぶ	リスク管理・鍼灸治療における有害事象について理解できる。
7	はりきゅう理論: 前半全般の復習	はりきゅう理論前半部分全般の問題演習を通して苦手部分を確認する。
8	確認テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。(はりきゅう理論基礎分野全範囲)
9	第8章 1)運動 2)内臓の調節	自律神経について理解できる。
10	第8章 2)内臓の調節 第9章 消化器系と鍼・泌尿器系と鍼	自律神経の小テストを行い、その後鍼が自律神経に与える影響を理解できる。
11	第8章 3)感覚	鍼が自律神経に与える影響の小テストを行い、その後感覚について理解することができる。
12	第9章 鎮痛	感覚の小テストを行い、その後鎮痛について理解することができる。
13	第8章 4)熱傷 第9章 循環器と鍼灸	鎮痛の小テストを行い、その後炎症について勉強し、軸索反射を理解することができる。
14	総復習	全ての範囲の復習を行い、期末試験の準備ができる。
15	期末テスト解説	効果測定を行い、自分の課題に気づくことができる。

〔成績評価について〕

確認テスト50点、期末テスト50点とし、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。100点満点中で60点未満の者は再試験を1度実施する。再試験は100点満点で60点以上の場合でも評価は60点扱いとする。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必要に応じ、プリントを配布する。既に一度学習したことのある内容になるため、教科書の他、これまでに学んだ際に使用したノート・プリント等を持参し活用すること。単なる暗記でなく、内容を理解した上で記憶する習慣をつけてもらいたい。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年 1	開講区分 後期	担当教員 藤掛 雅博			
授業科目名 総合基礎特講	必修・選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1)	授業回数 15		

〔授業の学習内容と心構え〕

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、医療の基礎となる内科疾患および病理学を分野ごとに演習する。また鍼灸治療に必要な基礎および応用分野を演習し、知識を深める授業を行う。

〔到達目標〕

鍼灸師を志す者にとっての基礎となる科目であり、技術的なことはもちろん、治療家としての心構えを構築する大切な内容であるため、しっかり理解を深める。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版:第2版)、新版経絡経穴概論(医道の日本社)、新版東洋医学臨床論(はりきゆう編)、病理学概論(医歯薬出版:第2版)、臨床医学総論(医歯薬出版:第2版)

回	〔授業単元〕	到達目標(できるようになること)
1	臨床医学総論	神経系の診察を理解する。
2	臨床医学総論	運動機能検査を理解する。
3	臨床医学総論	主な症状の診察法を理解する。
4	臨床医学総論	主な症状の診察法を理解する。
5	臨床医学総論	主な症状の診察法を理解する。
6	中間試験	1~5コマで習得した技術の再確認ができる。
7	病理学 第10章 先天性異常	先天性異常を理解する。
8	病理学 第9章 免疫異常・アレルギー	免疫異常・アレルギーを理解する。
9	病理学 第8章 腫瘍	腫瘍を理解する。
10	病理学 第8章 腫瘍	腫瘍を理解する。
11	病理学 第7章 炎症	炎症を理解する。
12	病理学 第7章 炎症	炎症を理解する。
13	病理学 第7章 炎症	循環障害を理解する。
14	期末試験	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解説	期末試験の解答解説を行う。

〔成績評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は、小テスト(10点)と中間試験(40点)、期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項・授業時間外における学習〕

必ず復習をすること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午後コース			学年	3	開講区分	後期	担当教員			
授業科目名	総合臨床特講			必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
担当教員: 深山 俊											

[授業の学習内容と心構え]

鍼灸師として臨床で現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、臨床医学各論・総論についての理解の仕方、考え方を解説する。疾病の理解の仕方、症状の理解の仕方を学んで欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。□

[到達目標]

疾病や症状について、それらの発生機序を解剖学・生理学から考えられるようになる。

[使用教材、参考文献等]

解剖学・生理学・臨床医学各論(医歯薬出版)

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・内分泌系の解剖・生理の復習	内分泌系の解剖・生理の復習
2	内分泌系の臨各の復習	内分泌系の臨各についての復習
3	内分泌系の臨各の復習(内分泌系 小テスト)	内分泌系の臨各についての復習
4	消化器系の解剖・生理学の復習	消化器系の解剖・生理学の復習
5	消化器系の解剖・生理学の復習	消化器系の解剖・生理学の復習
6	消化器系の臨各の復習	消化器系の臨各の復習
7	消化器系の臨各の復習(消化器系 小テスト)	消化器系の臨各の復習
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	呼吸器系の解剖・生理学の復習	呼吸器系の解剖・生理学の復習
10	呼吸器系の解剖・生理学・臨各の復習	呼吸器系の解剖・生理学・臨各の復習
11	呼吸器系の臨各の復習(呼吸器系 小テスト)	呼吸器系の臨各の復習
12	泌尿器系の解剖・生理学の復習	泌尿器系の解剖・生理学の復習
13	泌尿器系の臨各の復習	泌尿器系の臨各の復習
14	泌尿器系の臨各の復習(泌尿器系 小テスト)	泌尿器系の臨各の復習
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[成績評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は小テスト(5点×4=20点)確認テスト(30点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。□

[特記事項・授業時間外における学習]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。過去問なども自分で解いてみて、苦手なところを把握すること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2026年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午後コース	学年	3	開講区分	前期	担当教員 藤掛雅博 / 酒井大輝				
授業科目名 卒業演習	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15	

[授業の学習内容と心構え]

医療現場(鍼灸臨床現場)において各疾患の施術経験を有した教員が、臨床に必要な知識(基礎科目・臨床科目・臨床推論)を修得できるよう。講義や演習、ケーススタディなどを総合的に行う。

[到達目標]

基礎知識が向上し、症例に対する臨床推論ができるようになる。

[使用教材、参考文献等]

配布プリント

回	[授業単元]	到達目標(できるようになること)
1	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
2	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
3	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
4	基礎知識の習熟(解剖・生理・東洋医学)	基礎知識の振り返りを行い、臨床推論に向けての知識が獲得できる
5	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
6	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
7	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
8	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
9	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
10	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
11	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
12	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
13	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
14	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。
15	基礎知識の習熟(臨床医学各論・総論・東洋医学臨床論)	臨床所見を基に疾患が特定できる。

[成績評価について]

筆記試験で行う。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項・授業時間外における学習]

--	--